ⓕ 文集「みち」で時空を超えて

生駒台小学校の図書室には「みち」と題する文集が並んでいました。創立間もないころから積み上げられてきたものです。新しく開発された住宅地の真ん中に生まれたこの学校ですが，家によっては親のものと子どものもの合わせて数冊になったということも聞かれる息の長い取り組みです。私が勤務した昭和63年度から平成3年度にも第17号から第20号の4冊を発行しました。

巻頭には，私も 1 ページをもらいます。この原稿の執筆は，卒業記念アルバムや学校新聞などと共に,歴史に残る 1 ページとして大事にしてきた仕事でした。以下は，この 4 冊に書いた「まえがき」です。

○　平成元年 3 月発行の第 17 号から

私たちは,1 人 1 人がかけがえのない歴史を持っています。そして,お家にはお家の歴史が，学校には学校の歴史があります。

この学校の歴史，そんなに長くはないけれど，とても充実した歴史は校長室のロッカーにたくさん詰まっています。図書室には全校文集「みち」第 1 号から昨年発行した第 16 号までが，ずらりと並んでいます。

昭和 48 年に発行された，この「みち」第 1 号には,

・みなさんの作文や詩を書く力を伸ばしたい，という願いから全校児童の作文や詩を集めた「みち」をつくったこと
・ちゃんとしためあてと正しい考え方をもち，正しく判断してまちがいのない「みち」を歩いていくことが大切だ，こんなことから「みち」と名づけたこと

などが書かれています。そして，そのころの 1 年生から 6 年生，今は社会人としていろいろなところで活躍しておられる 946 人の作品が載せられています。

私は，この第 1 号の「みち」を読んで，いつの時代にも変わることのない目標を大切にしながらも，変わり行く時代の中で，身のまわりの様子や変化を感じとる目や心を育て，時代の流れに即応する力を身につけることや，21 世紀に生き，明るい未来を創造していく力を自分のものにすることが必要なのだ，と思いました。

この文集「みち」第 17 号が，あなたの歴史の 1 ページとなり，あなたの成長に役立つことを期待しています。

○　平成 2 年 3 月発行の第 18 号から

「みち」第 18 号をお届けすることになりました。この文集には，鉛筆をしっかりと握りしめ考えをめぐらせ，一生懸命に取り組んだ全校児童の作品が，いっぱいに詰まっています。これらの作品は，1 人 1 人のあしあとであり，1 人 1 人の宝物です。

一方，校長室にずらりと並んだ「みち」は学校のあしあとであり，学校の宝物であると言えます。今年も，こうしたあしあとを 1 冊付け加えることができたことをともに喜びたいと思います。

平成元年度の生駒台小，そのあしあとの中で一番大きかったものは，ソニー教育振興財団からの受賞でしょう。「人間の可能性の開発を目指す教育」という論文で優良校に選ばれたことは，学校が一丸となっ

ての取り組みが認められたということです。そして，「楽しい授業をつくるための教材の開発・工夫」をテーマにした私たちの研究や，子どもたちが力いっぱい活動し，なかまと協力して自分の力を伸ばすことのできた「野外訓練旅行」，今年の新しい取り組みである「屋上を教室に」という地図の広場つくりなどが大きな評価を得たわけです。

1 人 1 人の力は小さいけれど，みんなの力を合わせればずいぶんと大きなものになります。今年の成果を喜び合い，この歩みを来年にも続けていき，1 人 1 人が大きなあしあとを，学校も大きなあしあとを残していくことを約束したいと思います。

最後に，この文集の発行に，ご援助をいただきました市教育委員会や育友会に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

○　平成 3 年 3 月発行の第 19 号から

「みち」という言葉は，どんなことを思い出させてくれますか。夕焼けの空を見上げながら歩いた道ですか。汗をふきながら登った曲がりくねった山道ですか。果てしなく延び，幾重にも交差する高速道路ですか。きっと，いろいろな「みち」を思い出されることでしょう。

他にも「みち」があります。青い海に一直線につづくスクリューの白い航跡は海の「みち」・航路です。そして，世界をより小さくし，世界中の人たちを仲良しにしてくれた「みち」は空路です。こうした「みち」・航路や空路は，私たちの国と隣の国を結び，世界中に友達をつくってくれました。

さて，この原稿を書いていた，平成 2 年 12 月 2 日の日曜日，宇宙特派員秋山さんを乗せたロケットは，まばゆい光と轟音につつまれて，宇宙に出発して行きました。宇宙への「みち」です。この「みち」は何というのでしょう。「宇宙路」とでもいうのでしょうか。この「みち」も，21 世紀に向かって，より広く，より長く，そして快適な「み

ち」になっていくことでしょう。というよりは，これからの皆さんに，より広く，より長く，そして快適にしてくれるようにとお願いしなければなりません。

ところで，生駒台小の歩んできた「みち」は 26 年になり，全校文集「みち」も第 19 号となりました。第 1 号に文章を書いてくれた 6 年生は 30 歳になっています。生駒市教育委員会や育友会のご援助もいただいて作成したこの文集を皆さんの限りない前進を願ってお届けします。あなたの歴史の 1 ページとなり，あなたの成長に役立てていただくことを期待しています。

○　平成 4 年 3 月発行の第 20 号から

人がほかの動物たちと大きく違っていることの 1 つに，言葉を持っていることを挙げることができます。私たちは，この言葉を「話す」「聞く」「書く」「読む」ことを通して，自分の思いを多くの人たちに伝え，多くの人たちの考えを自分の中に受け入れてきました。そして，こうした交流を通して，新しい文化を創り出し，それを発展させてきました。

「話す」とか「聞く」とかいった活動は，今，向き合っている人と触れ合う方法ですが，「書く」ことは自分の思いや考えを遠く離れた人や長い時間を超えた未来の世界に伝えることですし，「読む」ことは，遠く離れた人や過去の人と触れ合うことでもあります。

今年，私たちは全校文集「みち」第 20 号を作りあげました。この中には，全校の子どもたち 918 人とこの学校に勤務する 39 人のすべての文が載せられています。この文集によって，私たちは多くの人たちと触れ合うことができますし，この文を読んでくれる未来の子どもたちとも触れ合うことができる訳です。その反対に，これまでに作られた「みち」第 1 号から第 19 号を読むことは，今は大人になって活

躍している昔の生駒台の子どもたちの生活に触れ，そうした人たちの思いや考えを知ることを可能にしてくれます。

文を「書き」それを「読む」ことは，時間や空間を超えた旅をすることなのです。この文集をとおして，より多くの人との心の交流を図り，自分自身の成長に役立てたいものだと思います。

子どものころから，父の転勤によって転々と引っ越しをしてきた私です。小学校や中学校のときのノートはもちろん，高校や大学のときのものも残っていません。その都度かたづけざるを得なかったのでしょう。でも，初めての学校で発行していた学級だよりや依頼されて書いたことが盛り込まれている書物や雑誌は残してあります。これらを読むことは過去の自分と触れ合うことになります。そして，過去の自分と時間を超えて対面することができるのです。触れ合う相手は自分に限りません。父の残した紀行文や随想を読むことで，父の考えに触れ，今なお父から学ぶことができます。また，遠く離れた人の考えに触れることもできます。書くことも同様です。今，自分の考えを書くことは，未来の自分へのメッセージの作成であり，子どもたちや孫たちに語りかけることです。

こう考えると，生駒台小学校の文集「みち」の取り組みは，もっと幅広く，時空を超えた触れ合いを目指すものだと言えます。私がこの学校に勤務したのは 4 年間でした。あれから，すでに 10 年以上が過ぎています。それはますます回を重ね，時空を超えた交流が進んでいることでしょう。こうした息の長い取り組みが子どもたちに与える影響は大きいと思います。まさに「継続は力なり」なのです。